

「令和5年度 予測困難な時代の学びを保障する学習手法の共有と海外展開に関する調査研究」選定結果の発表

「令和5年度 予測困難な時代の学びを保障する学習手法の共有と海外展開に関する調査研究」に申請のあった18件について審査を行った結果、以下2件を採択することといたしました。

申請機関	事業名	概要
国立大学法人 筑波大学	非認知能力の育成に向けた 特別活動の国際化と質保証 に関する研究 ～日本型教育先進地エジプト における Tokkatsu の効果 検証～ 【エジプト】	本事業は、エジプトの小学校で導入・実施されている特別活動 (Tokkatsu) の現地化の実態を調査し、個人と社会のウェルビーイングを支える要素ともいわれる非認知能力 (生涯にわたって必要な学びに向かう力) に与える影響を明らかにする。加えて、エジプトの関係者と共同で、質保証を目的とするディプロマ・プログラムを作成することを通じ、国際的通用性と倫理性を備えたグローバル・スタンダードな日本型教育モデルを開発する。エジプトで実施中の ODA 事業と相乗効果を発揮するとともに、カイロ日本人学校の協力を得て、人材の重層的ネットワーク強化にも貢献する。また、日本特別活動学会との連携を通じて、調査結果を国内に還元し、日本の教育の国際化につなげるとともに、将来的にグローバルサウスと呼ばれる国々の教育改善にも貢献できる知見の創出を目指す。
学校法人菊武学園 名古屋産業大学	気候変動に対応した環境リ テラシーの育成・評価 ～東アジア、東南アジア、南 アジアを通じた日本型環境 教育の展開～ 【ネパール、台湾、インドネ シア、ベトナム】	本事業は、これまで取り組んできた東アジア (日本、台湾)、東南アジア (インドネシア、ベトナム) における環境リテラシー育成を南アジア (ネパール) に横展開するものである。具体的には、ネパールの大都市域 (ポカラ、カトマンズ) の小・中学校を対象に、学校環境教育の実態やニーズ、児童・生徒の環境意識を調査する。また、身近な地域の CO ₂ 濃度調査に基づく体験的、探究な環境学習を支援し、生涯を通じて身に付けるべき知識・能力として、気候変動に対応した環境リテラシーを育成・評価する。ネパールにおける調査結果を日本、台湾、インドネシア、ベトナムの結果と比較、学校間での学びの共有を通じて、地球規模課題に向き合う児童生徒の育成に貢献する。